

日本医史学雑誌 第四十九卷 第四号 目次

総説

Perspectives on the Evolution of Japanese Medicine Shizu Sakai 三六

原著

眼科リハビリテーションにおける医療と福祉の統合過程——順天堂大学眼科リハビリテーション 高林 雅子 五二

クリニックの活動から 小高 修司 六五

白居易(楽天) 疾病致 望月 洋子 三七

ひろば

林洞海・研海——父と子の理念 望月 洋子 三七

資料

原典・古典の再発見「短波治療の基礎」物理—技術—適応症 奈良圭之輔、岩井信市、横地章生、小口勝司 六一

記事

例会記録

例会抄録

医学館における医学考試について 戸出 一郎 六九

西南戦役と神奈川県下の官修墓地 中西淳朗、松本龍二 七三

漢方製剤の医史学補遺 菊谷 豊彦 七三

コレラに対する禁忌食品の時代的変遷 佐分利保雄 七四

中神琴溪引書攷 館野 正美 七五

書籍紹介

川上 武 編『戦後日本病人史』 上林 茂暢 六七

立川昭二『生と死の美術館』 新村 拓 六八

《本号の表紙絵》

『はしかおとぎそうし麻疹御伽雙紙』(大塚修琴堂所蔵)の挿絵

予防医学や免疫学が未発達江戸時代、麻疹は痘瘡や虎列刺と並ぶ最も恐れられた伝染病。幕末、文久2年(1862)の大流行時に“はしか絵”と称される呪符と防疫方(食養等)を兼ねた錦絵・引札が多数刊行されていることは周知(『図録日本医事文化史料集成第4巻』参照)。当然、麻疹のための専著も多く100種に垂んとする。当該期の疾病史研究の資料とするに十分であろう。なかに麻疹に取材した戯作も数種あり、今回の表紙絵はその一つである。

半紙本(縦22,6糎×15,8糎)1冊。題箋缺、大塚敬節のメモ「絵本麻疹お伽双紙 麻疹薬種合戦」が残る。全18丁、前表紙に「麻疹によろしき食物」半丁、後表紙に江戸南伝馬町さか本氏製「御かほのくすり美艶仙女香」の広告半丁を貼付する。文政七甲申三月吉日の蔦屋十三郎以下4人の刊記。

江戸時代、麻疹は20~30年周期で流行した。順に示せば元禄3・宝永5・享保15・宝暦3・安永5・享和3・文政7・天保7・文久2等となり、本書は文政7年時のもの。

善玉(鍾馗や鎮西八郎為朝)が悪玉(擬人化された麻疹)を懲らしめるのは“はしか絵”でも普通の趣向だが、本書の特色は麻疹治療に有効な生薬を善玉の武人に擬している点にある。所掲場面は、風雲に乗って飛來する麻疹鬼を迎え撃つ升麻葛根湯の軍勢の図。升麻・葛根を大将に左右に甘草・芍薬が控え、手には薬匙。右端に頬杖をつく桔梗(桔梗湯五郎)の旗差物は厄除けの多羅葉。陣幕は医者のお供が着る印半纏。病室らしき六枚屏風の向こうにも大黃・連翹・黄・芒消・薄荷・山梔子らが蟠居する。

「参蘇飲入道、先陣に進んで麻疹鬼を追いまくる図」「涼膈劑助、大熱の軍勢を退治する図」「黃連解毒・白虎湯蔵、煩躁の軍勢をしづめる図」など挿絵も豊富で、まことに楽しい一書である。

(町泉寿郎)

須磨幸蔵ほか編『世界の心臓学を拓いた田原淳の生涯』	六七九
遠藤正治『本草学と洋学 小野蘭山学統の研究』	六六一
酒井シヅ『絵で読む江戸の病と養生』	六六二
呼吸器学百年史編集委員会『呼吸器学百年史』	六六四
医史学文献目録(平成十四年、二〇〇二年)	六六六
順天堂大学医史学研究室編	六七〇
藤田 尚男	六七九
野尻佳与子	六八一
立川 昭二	六八二
吉良 枝郎	六八四